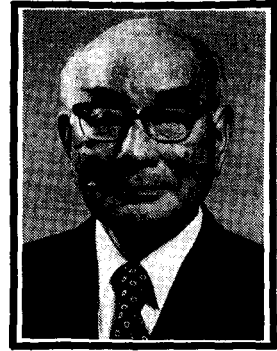


## 土光敏夫元会長を偲んで

山口 襄



土光敏夫さんが去る8月4日早朝に、東芝中央病院で老衰のため、逝去された。享年91才である。

当学会の創立発起人の1人として、入会され、昭和42年に第7代会長として2年間就任された。その間に10周年の記念を祝われた。また、昭和50年に全世界のORの関係者の会合が、京都国際会館で、IFORSとTIMSとの合同で行なわれた。そのさいにも経団連の会長の立場で、記念講演をやってくださった。

土光さんは学会よりも、国家として行政改革に対し、中曽根前首相のうしろ立てとしてこれをやりとげられた功績は立派なものである。

土光さんは、大正9年に東京高等工業学校機械科（現東京工業大学）を卒業された。同級生に、日本で統計的品質管理を独学で創設された石田保士さんがおられる。お2人に親しくご指導をいただいた私は非常に幸運であったとつくづく思っている。

学校卒業後ただちに石川島造船所に入社され、石川島タービン社長、石川島重工（現石川島播磨重工業）社長を経て昭和40年に東京芝浦電気（現東芝）の社長に、昭和47年に会長に就任された。昭和49年から経済団体連合会会長を6年間つとめられ、昭和58年6月に臨時行政改革推進審議会会長に就任、昭和61年6月まで「行革」に情熱を燃やし続けられた。昭和61年11月には民間人として初めて「勲一等旭日桐花大綬章」をうけられた。

土光さんは、会社社長時代は誰れいうとなく「ミスター合理化」の名をつけられ、行革を引きうけられてからは「ミスター行革」の名がつけられた。もちろん本人がそのような名をいったことはまったくないと思うが、それがふさわしい名であり、それをいうと、誰でも土光さんがすぐ浮かんでくるのである。全力をそれにぶっつけられた結果であろう。それにはそのときどきで、今何が重大かをよく考えられ、それをどうしたら解決できるかを考え抜かれ、考えがまとまると、それに向って直進

的に実行されたのである。いろいろ雑多な問題が常にその周囲にまつわりつくものであるか、何が本筋かをしっかり握られたのであろう。直情の士とか、有言実行の人とか、古武士的存在とか、いわれるお方である。

土光さんの日常の暮しぶりは、質実そのものであった。そして会社から受ける報酬等のごく一部を残して、ほとんど全部を土光さんの母上が創設された女学校に寄付しつづけてこられたのである。日常生活の土光流の合理化である。健康であったときは毎朝4時頃に起床され、近くの学校の校庭で体操をやられ、家に入られ経文を読まれてから朝食をとられた。会社には始業時刻の30分前には必ず出社された。しかしこれ等を他人におしつけることはまったくなく、誰でも話したい人はこの時間にこいといわれた。

土光さんの思い出はつきない。今日ほどに経営学、経営工学、OR、QC等の学問や研究がすすんでいなかった時代に、深く考え、決断を行ない、これを実行された。ミスター合理化、ミスター行革の精神を忘れてはいけない。

昨今はいろいろの研究がすすみ、各種の手法が創設されて、ますます深味が進んでいることはよいことに間違いないが、同時にこれらの研究を実務に活かす手法や思想がもっと発達してしかるべきではないだろうか。それには土光さん達、経済界のすぐれた先輩、工業界の先輩各位のすすまれた道をもう一度検討、研究し、そこに時代に合った新しい道を拓いていくことも大切だと思っている。若い研究者の再検討をお願いする次第である。

(元副会長・フェロー)

#### 故 土光敏夫氏略歴

本籍	岡山県岡山市北長瀬792
住所	神奈川県横浜市鶴見区北寺尾5-2-24
生年月日	明治29年9月15日
大正9年3月	東京高等工業学校機械科 卒業
昭和21年4月	石川島芝浦タービン(株) 取締役社長
昭和40年5月	東京芝浦電気(株) 取締役社長
昭和49年5月	(社)経済団体連合会 会長
昭和53年6月	石川島播磨重工業(株) 相談役
昭和53年10月	(社)日本工業倶楽部 理事長
昭和55年5月	(社)経済団体連合会 名誉会長
昭和55年6月	東京芝浦電気(株) 相談役

昭和53年5月	勲一等旭日大綬章受章
昭和61年11月	勲一等旭日桐花大綬章受章

#### 〔当学会関係〕

昭和42年5月	評議員に選出される
昭和42年5月	会長に選出される
昭和45年5月	名誉会員に推挙される
昭和63年8月4日4時8分	逝去 老衰